

# 市政を問う!

●市の障害者雇用率は1.71%。県内で最低クラス  
違法状態の是正には、5人の雇用が必要  
●税金はレストハウスより、暮らしや教育に



山崎 一洋議員

**Q** 障害者の雇用水増しが、大きな問題になっている。中央省庁は「障害者手帳」の確認など、ガイドラインを守っていないかった。平戸市では違反はないか。

**A 総務部長**

「障害者手帳」を確認している。

**Q** 市の障害者雇用率は1.71%。法律で定められた2.5%を大きく下回っている。長崎県内の自治体の中で、最低クラスだ。現在、何人の障害者を雇用しているのか。また、違法状態を是正するには、何人の雇用が必要か。

**A 総務部長**

障害者は8人在籍。うち3人が重度障害者。重度障害者は2倍に計算してもよいので、11人ということになる。25%を達成するには、5人の雇用が必要。

**Q** 違法状態にある現状をどう是正するつもりか。

**A 市長**

整備活用検討委員会には十分に市民の意見が反映されている。議員にも十分意見交換をしてきた。

**Q** 世界遺産登録後の観光客の動向とレストハウス建設の必要性について問う。

**A 文化観光商工部長**

施設によって違つてはいるが微増といったところである。レストハウスについては、検討委員会の答申、利便性と施設のバリアフリー化なども含め、情報の発信拠点としても建設の必要性があると考えている。

**Q** 2億5千万円の税金を使うレストハウス建て替えが、本格的に始まる。この9月市議会に、4千万円超の補正予算案が提出された。事業を一旦止めて、市民説明会など、市民の声を聞く機会を設けるべきだ。そして、市民の声に基づいて、計画を抜本的に見直す。場合によっては建て替えを中止すべきだ。

**A 文化観光商工部長**

整備活用検討委員会には十分に市民の意見が反映されている。議員にも十分意見交換をしてきた。

**Q** 医師の高齢化および医師不足は、活動に努めている。

**A 病院局長**

本年6月に総合診療科医師1名(期限半年間)を確保できた。また、長崎大学医学部・長崎医療センターへの依頼や医師派遣会社への募集を行なっている。7月の県知事要望の際には、①県医学修学資金貸与条例の勤務を義務付ける医療機関に両病院を加えること。②へき地公立病院も離島並みの医師確保支援をすること。③来年度、医師派遣することを要望した。

**Q** 患者(家族等)を中心に据えたチーム医療・地域包括ケアシステムをどう展開していくか。

**A 福祉部長**

超高齢社会への対応として、誰もが地域で安心して暮らし続けられるよう、医療や福祉、介護の予防体制を整備し、住まいや日常生活の一体的な地域包括ケアシステムを築く。

**Q** 従来、平戸市民病院では、サングラスを設置し、先進的にケアシステムを構築した。両病院で患者に寄り添った院内ホストやサービスマン向上委員会の活動など高く評価できる。今後、老人の孤独死がなく、安心して平戸に嫁いでもらう大切な条件だ。

**A 農林水産部長**

対策が必要とされた箇所は一カ所だけで、修復を行うように予定している。

**Q** 近年、ため池崩壊の災害が起きているが平戸市の状況は。

**A 農林水産部長**

対策が必要とされた箇所は一カ所だけで、修復を行うように予定している。

●安全で安心な市民生活のための防災対策の現状を問う



池田 稔巳議員

**Q** 平戸市では、自然災害(主に台風)等により被害が出ている。原発事故やミサイル攻撃による災害も忘れてはならない。平戸の地域に合った対策は考えているのか。

**A 市長**

平戸市では地域防災計画を策定しており、平戸市の土地条件、社会条件等を踏まえ災害予防計画や災害応急対策について詳細に記載し、年度ごとに経験を踏まえた充実を図ってきている。今後も国や県、専門機関、民間事業者、自主防災組織と連携し、自助・共助・公助の三つの柱で安心・安全なまちづくりを実現していきたいと考えている。

**Q** 7月初旬の西日本豪雨では、農地や公共土木災害等で合計292カ所の被害があったとの報告であるが、災害からの避難や警戒の周知の手段と対応の充実はなされているのか。

**A 総務部長**

防災無線は市内に215カ所設置されており、一度に鳴らすと共鳴されている。

**Q** 下流域に主要道路や住宅がある箇所ではハザードマップを作り、地域とのリスク情報を共有している。また、地元管理者とも情報を共有し災害予防に努めている。

**A 文化観光商工部長**

おもてなしや接遇向上の取り組みを行なっているが、一部改善した店舗も見受けられるが、事業主や従業員の意識が低く、指導改善を行なっても長続きしない状況。

**Q** 世界遺産登録後の観光客の動向とレストハウス建設の必要性を問う。

**A 文化観光商工部長**

施設によって違つてはいるが微増といったところである。レストハウスについては、検討委員会の答申、利便性と施設のバリアフリー化なども含め、情報の発信拠点としても建設の必要性があると考えている。

**Q** 「レストハウス」の別の名称を一般公募してはどうか。

**A 文化観光商工部長**

良い考えだと思つて検討していきたいと思う。

●市立病院について  
●災害時の道路対策と新たな災害対策について  
●産業振興について



井元 宏三議員

**Q** 病院の経営状況患者動向を踏まえ、一つの市に二つの市民病院があることに対しての考え方は。

**A 市長**

両病院とも運営状況はおおむね良好。市内の人口減少は続いているが、医療を必要とする65歳以上の年齢構成が増加傾向にあり、これから医療機関の必要性は高まっている。今後10年・15年ほどは現場の体制を維持しなければいけないと考えている。また平戸市に二つの市民病院がある意味は、各地域の救急医療を担い「保健」「医療」「福祉」全ての分野にサービスを提供している重要な拠点施設で、これを維持することも市民に対して重要なことであるため、現状で合併の考えはない。

**Q** 近年、ため池崩壊の災害が起きているが平戸市の状況は。

**A 農林水産部長**

対策が必要とされた箇所は一カ所だけで、修復を行うように予定している。

**Q** 下流域に主要道路や住宅がある箇所ではハザードマップを作り、地域とのリスク情報を共有している。また、地元管理者とも情報を共有し災害予防に努めている。

**A 文化観光商工部長**

おもてなしや接遇向上の取り組みを行なっているが、一部改善した店舗も見受けられるが、事業主や従業員の意識が低く、指導改善を行なっても長続きしない状況。

**Q** 世界遺産登録後の観光客の動向とレストハウス建設の必要性を問う。

**A 文化観光商工部長**

施設によって違つてはいるが微増といったところである。レストハウスについては、検討委員会の答申、利便性と施設のバリアフリー化なども含め、情報の発信拠点としても建設の必要性があると考えている。

**Q** 「レストハウス」の別の名称を一般公募してはどうか。

**A 文化観光商工部長**

良い考えだと思つて検討していきたいと思う。